

毎号リレー形式で江田島市内で活躍する人やお店を紹介!

interview

ETAJIMA GoON! Vol.11



江田島オート 梶田 克哉さん

Felice Kitchen
中森 聡さん

『面白い』と思ってもらえるような場所にしたい。

『好き』を生かして。



トを継ぐ前からディーラーに勤めていたそう。敷地内には、最新の車から貴重な昔の車も並んでおり、インタビュウ中にも思わず目が行ってしまう。「僕は昔の車が好きなんです。もちろん最新の車も魅力的なものが多いですが、僕が持っている技術は、昔の車の方が通用する：なんて言っちゃって車とお喋りができるんだ！だから、職場体験で学生が来た際には、昔ながらのタイヤの交換方法などを伝えるようにしています。今の車は性能が良いのでなかなか壊れないとは思いますが、何かあった時のために知識として持っておくのは良いことだと思ってるね」

人に恵まれ 江田島市が好きになった

「仕事にも慣れないといけないので大変ではありましたが、地元の人や家族に支えられながら、毎日忙しく過ごさせてもらっていました」移住当初は子育ての真っ最中だったこともあり、仕事もプライベートも忙しかったという梶田さん。そんな環境に変化が現れたのはここ3、4年の話だという。きっかけは、移住者をはじめとした、さまざまな人たちとの出会いだった。

「気が付くと江田島市に移住者も増えていて、面白そうだな人たちがたくさんいた。地元の人たちも行動を起こす人が増えていて、驚いたんですよ。そこから、行動範囲を広げてみたら、面白い人たちとの出会いも増えて、仕事もプライベートもより楽しくなりました」梶田さんは、それまで興味は無かったアウトリガーカヌーやSUPなどの海遊びにも挑戦し、交流の輪を広げていった。輪が広がれば、面白いことに自然と江田島オートの名前も広まってくる。「名前は知っているし、顔も見ただことはあるけど、僕が何をしている人なのか知らない人も多くて。色んな場所

に顔を出す度に、自然と江田島オートの宣伝にもなっていたんですよ。それに、人のつながりが増えていくほど、お気に入りのお店や場所も増えていって、江田島市のことがもっと好きになりました」

多くの人との出会いを経て、今では『江田島オートのかつちゃん』で通るようになった。だからといって、梶田さんは仕事を求めるわけでもなく、みんなが気軽に相談できる存在になればと話す。「頭の片隅にこんな人がおったなと思ってもらえるだけで有難いです。車のことで何かあった時には、フランクに相談してもらえればと思うし、僕自身もお世話になった人たちには、返していきたいという思いがある。やっぱり人は、頼り頼られ、支え合って生きていくものですから」

仲良くしてくれる人たちへの感謝の気持ちを忘れず、仕事でも仕事以外でも一生懸命動く。自分も誰かに刺激を与えられるような、面白い人の一員になりたいと語る梶田さんは、今後は車だけに留まらず、さまざまなことに挑戦していきたいそうだ。「今、江田島市は面白いと思うよ！移住者の人たちも増えて、外から持ってくる知識とか経験とか、

Vol.11
江田島オート
かつや
梶田 克哉



『古いやり方』が僕の個性

案内された大きなショールームの目の前に広がる絶景。その絶景を見つめる美人なマネキンや、手描きのポップ、ぬいぐるみなどのディスプレイに驚いていると「これはお母さんの趣味なんよ(笑)。面白いじゃろ?」と声を掛けてくれる。「ショールームには普通は車があると思うんだけど、色々問題があって置けない。だったら、海沿いの車屋さんという立地を生かして、綺麗な景色を提供しようと思ってね」そう言ってる、満面の笑みを見せるのは社長の梶田さんだ。

江田島オートは、自動車販売や整備全般を行う車屋さん。梶田さんは3代目、結婚を機に江田島市に移住され、江田島オートを継いだ。出身は県の東部、福山方面だと教えてくれた梶田さんは、江田島オ

見たり聞いたりするだけでも刺激になります。だから先の話が、すぐになるかは分からないけど、自分の『好き』を生かして、商売の一つにしたという夢もあるんだよね。車だけじゃなくて、古着があったり、雑貨があったり：そんなお店が出来たらいいね！僕も面白い人の一員になれるといいなあ」

古い車やモノを使って何か始めたいという梶田さんの話を聞き、江田島オートが面白スポットになる日も近いかもしれないと、私自身ワクワクした。



手つわりのレストアップした車。小さく可愛らしい。ぜひ見てほしい。江田島オート 江田島市江田島町鷺部 3丁目4-2 0823-42-1011